

9) 医薬品の剤形，識別方法

1 経口投与する製剤

1 錠剤

剤形	特徴	例：写真
口腔内崩壊錠	唾液や少量の水で溶けるように作られた錠剤。物をうまく飲み込めない嚥下障害がある人や幼小児，水分摂取を制限されている人も容易に服用できる。	 ガスター-D錠 ノルバスク OD錠
チュアブル錠	噛み砕いて服用するタイプの錠剤。水がなくても飲むことができる。	 キプレスチュアブル錠
裸錠	薬の成分を錠剤の形に圧縮し，表面は何も加工していないもの。	 マグミット錠
フィルムコーティング錠	薬の表面を水溶性の化合物の膜で覆った錠剤。苦味や刺激臭をなくして飲みやすくしたり，湿気や光に対する安定性を向上させたりする。	 クラビット錠
糖衣錠	薬の表面を甘い糖分の膜で覆った錠剤。	 フスタゾール糖衣錠
徐放錠	薬の成分がゆっくりと溶け出し，効果が長く続くように加工した錠剤。噛んだり砕いたりすると，短い時間で薬の効果がでて，血液中の薬の濃度が急激に上昇し，副作用の危険性が増す場合がある。	 デパケン R錠 アダラート CR錠 アダラート L錠
腸溶錠	薬の成分が胃酸によって変化したり，または胃を刺激するために，胃では溶けにくく，腸で溶ける膜を施した錠剤。噛んだり砕いたりすると，薬が胃の中で溶けてしまい，胃酸によって効果を失うことになったり，胃の粘膜を荒らしたりする。	 バイアスピリン錠

2 カプセル剤

剤形	特徴	例：写真
硬カプセル剤	円筒形のボディーとキャップからなり、中に粉末状や顆粒状の医薬品を充填してある。	 セルベックス カプセル
軟カプセル剤	ゼラチンに可塑剤としてグリセリンなどを加えてシートにしたものに医薬品等を挟み込み、圧着成型したもの。球形、楕円形などの形状がある。油状やペースト状のものを入れることができる。	 エパデール カプセル

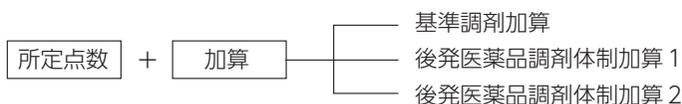
3 液剤

剤形	特徴	例：写真
シロップ剤	医薬品を白糖その他の甘味料または単シロップに溶解または混和し、濃稠な溶液または懸濁液とした内用剤。	 フスコデ配合 シロップ
エリキシル剤	甘味・芳香のあるエタノールを含む澄明な内用液剤。医薬品またはその浸出液にエタノール、精製水、着香剤および白糖または甘味剤を加え、ろ過等により透明な液に製する。	 デカドロン エリキシル
リモナーデ剤	甘味と酸味がある澄明な内用液剤。通例、塩酸、クエン酸、酒石酸または乳酸のいずれかに単シロップおよび精製水を加えて溶かし、必要に応じてろ過する（用時に調製する液剤）。	医療用医薬品としての販売はない。
エキス剤	生薬の浸出液を濃縮または乾燥したもので、次の2種類がある。 ・軟エキス剤：水あめようの稠度。 ・乾燥エキス剤：砕くことができる固塊、粒状または粉末。	液剤のエキス剤は医療用医薬品としての販売はない。
ゼリー剤	舌でつぶすことができる適度な硬さと粘性があり、水なしで服用できる。	 アーガメイト ゼリー

2) 調剤基本料

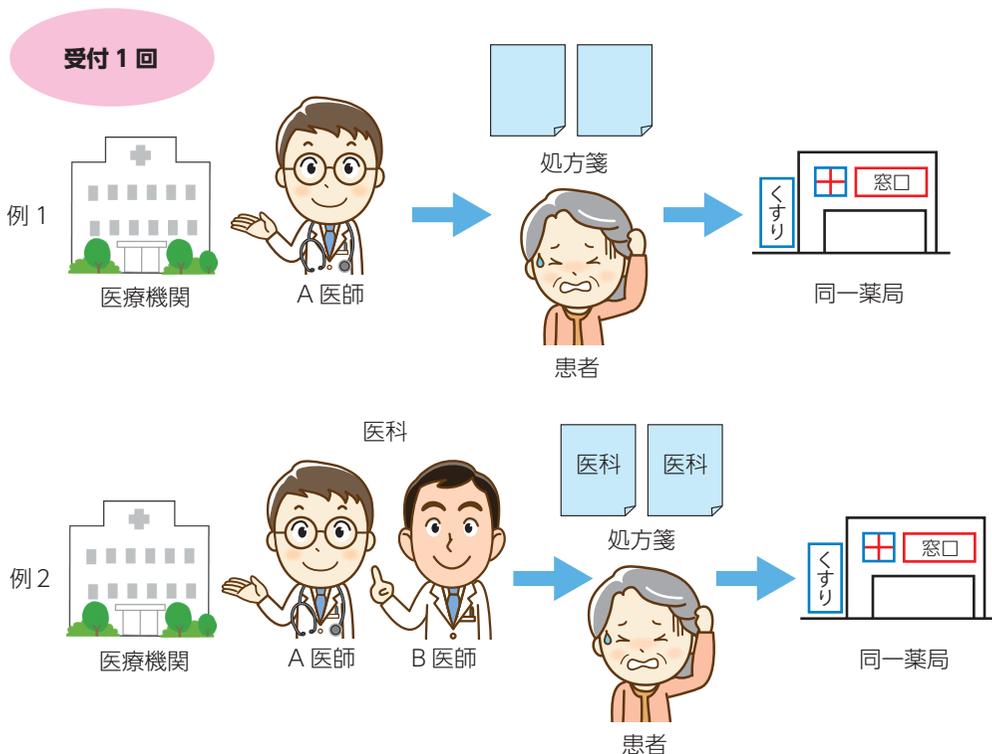
1 調剤基本料とは

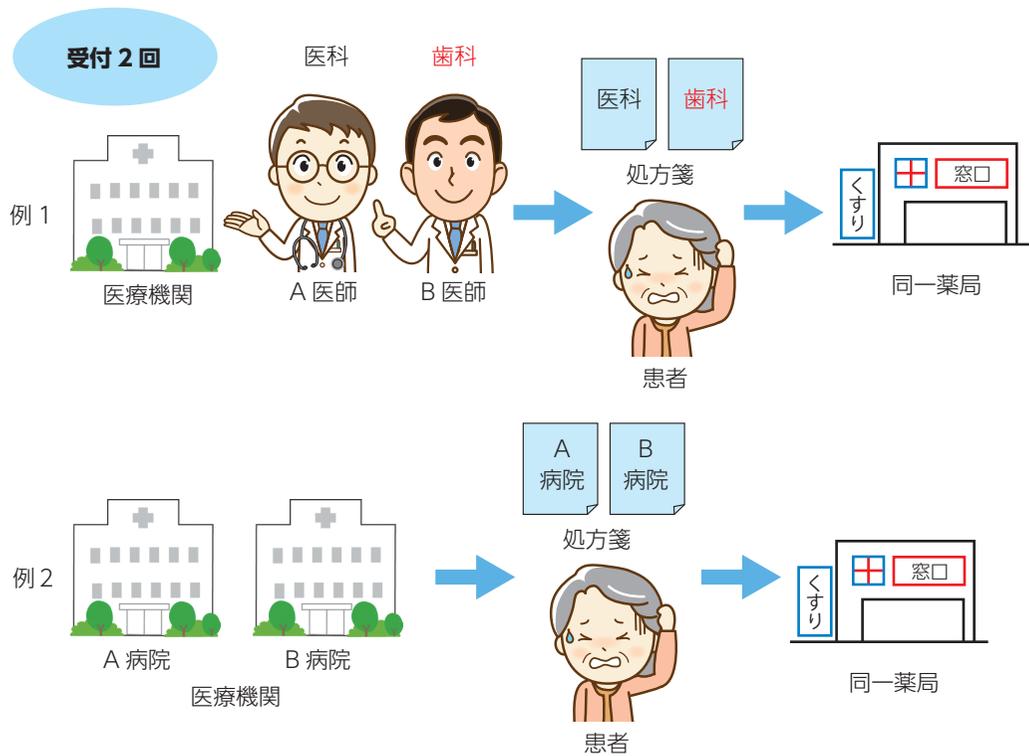
調剤基本料は所定点数と加算点数で算定します。加算点数には、薬局施設に対する加算としての基準調剤加算、後発医薬品を調剤した割合に対する加算としての後発医薬品調剤体制加算1および2があります。



2 処方箋受付回数の考え方

同一の医療機関から発行された処方箋で同一日に受け付けた場合は、基本的に受付は1回です（処方日が違う場合も含む）ただし、診療科が歯科とそれ以外の科の場合は受付2回となります。また、同一日に一度家や職場に戻ってから容態が急変し、再度処方箋の交付を受けて調剤するような場合、受付は2回となります（レセプト摘要欄にその旨を記載します）。





3 所定点数

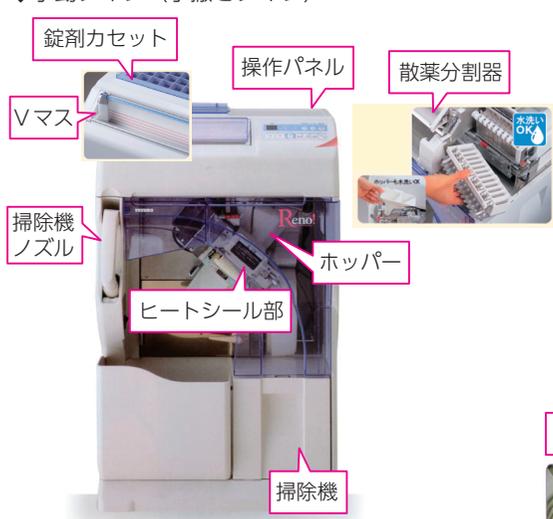
処方箋の**受付回数1回**について算定します。また、「集中率」とは、全体の処方箋数のうち、特定の保険医療機関に係る処方箋による調剤の割合のことです。

<p>調剤基本料1 調剤基本料2または3に該当せず、妥結率が50%を超える場合、または調剤基本料2または3に該当するが、勤務薬剤師の半数以上がかかりつけ薬剤師に適合し、かかりつけ薬剤師指導料、かかりつけ薬剤師包括管理指導料の実績(薬剤師1人100件以上/月)を有している。</p>	41点
<p>調剤基本料2 受付回数4,000回超/月かつ集中率70%超、または受付回数2,000回超/月かつ集中率90%超、または特定の医療機関からの受付回数4,000回超/月(集中率は無関係)。</p>	25点
<p>調剤基本料3 グループ全体の受付回数40,000回超/月のグループに属する保険薬局のうち、次に該当するもの。 ・処方箋集中率95%超の薬局 ・特定の医療機関との間での不動産の賃貸借取引がある薬局</p>	20点

2 分包機

分包機の各部位名称

◆手動タイプ（手撒きタイプ）



◆全自動タイプ



◆使用方法（くわしくは取扱説明書を参照）

- ・電源を入れます（ヒートシール部が熱されるまでに時間がかかるため、朝一番に電源を立ち上げます）。
- ・錠剤カセットやVマスなどを掃除機ノズルで清掃します。
- ・手動タイプはVマスの目盛を必要分包数に合わせます。全自動タイプは操作パネルで分包数を入力します。
- ・分包パターン（錠剤のみ、散剤のみ、錠剤＋散剤、錠剤後に散剤など）、分包紙ヒートシールの幅、分包速度などを操作パネルで設定します。
- ・錠剤カセットへ錠剤をセットします。
※手動タイプはVマスへ散剤を入れて均等にし、散薬分割器へ落とします。全自動タイプはホッパーへ散剤を入れます。
※複数同時に分包する場合は、この作業をくり返します。
- ・すべてセットしたらスタートボタンを押します。
- ・出てきた分包紙の中身を監査します。
- ・散剤使用後であれば、重曹を撒いて掃除します（使用した包数分（＋3包ほど））。その後、Vマスを掃除機ノズルで清掃します。
- ・開局時間終了後、電源を切り、掃除をします。

3 その他の器具の名称



- ・名称：薬さじ，スパチュラ，スパーテル
- ・金属製のものが多く採用されている
- ・散剤を秤にすくい取るのに使用



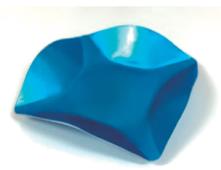
- ・名称：分包紙
- ・紙のタイプとセロハンのタイプがある
- ・散剤を包む袋



- ・名称：分包機用ヘラ
- ・プラスチック製で、いろいろな大きさのものがある
- ・Vマスに入れた散剤を均等にするのに使用



- ・名称：乳鉢（容器），乳棒（棒）
- ・磁器製
- ・複数の散剤を混和したり，錠剤をすり潰す（粉碎）のに使用



- ・名称：秤量皿
- ・プラスチック製やアルミ製などがある
- ・散剤を秤量する時に使用（プラスチック製は静電気に注意）



- ・名称：薬包紙
- ・パラフィン紙製（つるつるした素材）
- ・散剤を服用1回分，分包する
- ・散剤を計量する際に，秤量皿を汚さない目的でも使用

薬包紙の折り方

※薬包紙の中央に散剤を置き，図のように包み折ります。

